

「観光くまもと」への提言

★熊本は日本一の観光地。だが……

上野 義 広

私は南国鹿児島出身であるが、熊本県は九州でいちばん暑く、又いちばん寒いところと聞いていたので熊本勤務は実のところ嫌いだなあーと考えていた。

福岡で昭和四十年二月一日付けの辞令を受けて早速赴任したが、早いもので熊本県、市民税を既に二年四月納めて来た。さすがに森の都と呼ばれ、水の都と親しまれて天下に知られるだけあって空気が美味しい。新鮮な生野菜と果物が四季を通じ豊富で、お米なども菊池米が余りにも有名である。従って予想を裏切り最近に至っては正直なところ熊本を動くのがすっきり嫌いになって仕舞った。

熊本県は九州の中心地でありよくカマメであると言われる。これからの九州観光は熊本市を「扇の要」「出発点」として旅行のコースが進められるというのも過言ではあるまいと思料される。

さて過ぐる昭和三十九年十月三日九州横断道路の山なみハイウェイが開通して以来、熊本県を訪れる観光旅客は急激に増加の一途を辿っている。例えば個人グループ、新婚、航空、セット旅行客は勿論のこと、団体旅客においては一般の小口、大口団体や宗教、農協、婦人、青年

研修団体等と共に小、中、高等学校が国鉄臨時列車と貸切バスを利用して連合体の修学旅行団体で訪れるのが特に著しく増加している。今後、将来においては増々レンタカーや自家用車利用による家族グループ、職場旅行客が一段と増大することになる。国鉄当局において第三次長期計画が着々と実施されると鹿児島本線が電化、複線化されて、ますます交通はスピード化されて至便になるだろう。

スケールが大きい 「観光くまもと」

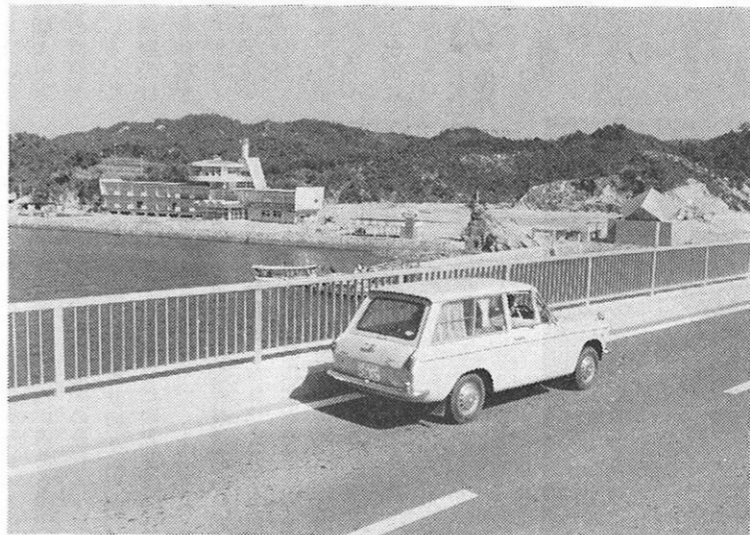
また昨年の九月二十四日に熊本県民長年の宿願であった「夢のかけ橋」天草五橋が見事完成してからは観光天草は一躍ブームを呼んでパールラインコースとして全国各地から待望の「旅行商品」としての価値をたかめている。

嬉しいことには九州縦貫道路の決定、高遊原国際空港の誘致と相まって九州で唯一と云われる熊本市郊外金峯山周辺地域の国民の森として指定を得られるならば、国立公園大阿蘇の大観峰スカイラインコース八カブト岩及び菊池溪谷めぐりを含むVの完成等と共に時期尚早では

あるが何れを挙げても九州で否、全国的にみても壮大、景観美、規模的にこれらに勝る観光地があるとは考えられない。将に熊本県民の一人として日本一だと誇り叫びたい。

しかし乍ら現在までに最も数多く全国の観光客から寄せられた卒直なるご指摘と苦情とを内容的に問題をひろいあげ実情に沿って分析するならば大要次の五項目に分類出来るのではなからうか。

1. 交通と道路
 2. 宿泊施設
 3. 従業員の接遇サービス
 4. 食堂、売店、土産品等
 5. 観光地周辺の便所不足と塵埃処理
- ①の問題については現在知事さん又は各地区の町村長さんを始め日本道路公団において一生懸命に長期計画の線で推進していただいているので今暫らく完成を待ちたい。
- ②宿泊施設の問題であるが今後将来において
- 近代的なホテル、旅館の完備せる施設と大きな収容力を求められる。
- (三〇)室よりせめて六〇室



程度以上)

- あらゆる階層の観光旅客を受入れ可能な宿泊施設(デラックス、中級並びに低額の宿泊料金などすべて受入れ可能な施設)
- 農業高校、研修所などの修学旅行と研修を兼ねた長期に宿泊が可能な施設。
- 一般大口団体用客室及び連合高校、

うまかった話

伊藤 まち

(演出・脚本家)

「全く天草のたべものよさには兜をぬいだ。何もかもうまかったのである。天草は有明海、八代湾、天草灘にかこまれた潮流も海の性格も多様で沿海や沖合の漁業に恵まれている。魚、海藻、貝、海の幸は何でもござれの上肉も天草牛の名にそむかずそのビーフカツのおいしさに同行の若いカメラマンは満腹ばらたきたきながら、なお且つ箸の手を休めなかった。またミカン、ビワ、柿、西瓜など、量のことはさておき質の良さは島

カラシ蓮根

檀 一雄

(作家)

「熊本ではやっぱり、「カラシ蓮根」が特殊の味だろう。水前寺の「川ノリ」のおすましや、三杯酢も風味があって、おいしいものだが、同じ「川ノリ」を久留米の園分でも栽培している。祖し「寿泉苔」の方はこの頃、栽培がへったのか、久留米に立ちよっても余り食べさせてくれなくなったのはどういうわけだろう。さて、熊本の水前寺に近いところに

旅の味覚

民の自慢するところ。私は島独特の無花果の皮をむいて冷した南国の味を口にする機会を得なかつた事を残念に思っている。調理についても、材料のよさにうぬぼれることなく、味つけも品よく誰の口にも合うようにこなされているのには感心した。富岡の古びた旅館での話だが、無理をいうことになるかなと思っていたが、朝食にパンをたのんだところ、ただちに一流ホテルでもなかなかと思うような洋風の献立にかえてくれた。その時、上等なロールハムに貝類や海藻、新鮮な野菜の盛り合せた皿が朝の眼をひとときわ爽やかにしたのを思い出す。」

(「九州の観光だより」より)

何といったか、いつも名前を忘れてるが素適な川魚料理屋がある。鯉や鰻を喰わせる店だが、店の中にソウソウの清水が流れこんでいるのが爽涼とでもいっていいほどである。その昔、佐藤春夫先生と御一緒に喰べに行って、先生も後から思い出しては、いい店だったといっておられた。今年の冬、熊本に出かけていったついでに、久しぶりに尋ねあててみたが相変らず昔のままの店であった。但し次第に高級料亭に変わりそうな気配でそれが心配だ。」

(「旅」より)

観光サービスは まごころから

③ 従業員の接遇サービス面においては非常に難しい問題である。宿泊施設は人間の貴重な生命と貴重品とを宿泊料を頂戴してお預り申し上げる施設であるのでこれ程難しい、しかも尊い職業はないものと考えなければならぬ。宿泊料に相応すると言おうか客層に相応すると言おうか、否それ以上の客室と施設とを提供し、料金以上の食事などを提供申し上げて、唯真心をもつて感謝の奉仕を捧げなければならぬというところになるようである。遠方より多くの時間と過労を消費しながら、経費を掛けて宿泊していただいたことに対して有難いと「感謝する気持ち」でお迎え、お泊り、お見送りする以外に完全サービスの方法は無いのではなからうか。

接遇のサービスにはここまでだと云うような限界はない。唯々報恩、感謝、奉仕の真心以外には無いのではなからうか。

うか。

- ④ 食堂、売店、土産品等の価格の問題で高いとか、または品質が悪い、少量とかしばしば苦情を言われ勝ちである。だがやはり先ず第一に考慮しなければならぬ点は、
 - 経営者の従業員に対する指導教育の不足
 - 販売体制の不備
 - 多客期における従業員の熟練度合
 - 遠隔地に後日発送する場合などの注文受け違いなどがあげられる。
- 欲をいえば出来るだけ早い機会に熊本県の生産品とローカル色を織り込んで郷土色豊かな土産品にしなければならぬということだろう。

⑤ 全国的にみて、昨今においては男性の旅行人口より女性の旅行人口がはるかに多いなどと云われている。受入れ観光地における便利施設は出来るだけ収容力を大にして数多く完備すべきは当然である。また塵埃処理の問題については自然の景観美を觀賞のため訪れていたいただいた観光客の方達のご協力を仰ぐとともに、常に管理の掌に当たる市町村当局の適切なる清掃処理に多くをお願ひせざるを得ないものと考えらる。

(日本交通公社熊本営業所副所長)